

会 生力ねぶたの運行
場 沸かせた雷神の練り歩き

8月18日に生力ニュータウン(赤池26区)で恒例の夏祭りが行われました。昨年の夏祭り当日に大雨が降りねぶたが破損したため、青森県出身のランタンアーティストである三上真輝さん(古賀市)に修繕の協力を依頼。生まれ変わったねぶたには、地域の子どもたちが作った約30個のちょうちんも取り付けられ、地域一体で作った新たな伝統が祭を盛り上げました。



↑ 約300人の来場者の目を一身に集めながら、悠々と地域を練り歩く雷神ねぶた。

↓ 成形から焼成まで約1か月をかけて作陶した、幅55cm・高さ33cmの「緑碧」。



創 高鶴享一さんが宮崎県知事賞を受賞
意 工夫を重ねた力作が好評を博す

7月22日に第26回現代工芸美術九州会展の審査会が佐賀県有田町で行われ、高鶴享一さん(庚申窯)が宮崎県知事賞を受賞しました。今回入賞した「緑碧」は、風の流れをモチーフとし、上野焼の特徴を生かした美しい色合いで表現。自身初となる横型の鉢物での受賞に、高鶴さんは「試行錯誤して作陶した作品が評価され嬉しい」と、受賞の喜びを語りました。

子 福智町青少年問題協議会・PTA 連合会教育講演会
ども たちの未来を守るために

7月21日に福智町地域交流センターで教育講演会が行われました。田川警察署職員による喫煙の防止と、薬物依存症のリハビリ施設である九州ダルクが施設の活動について講話。青少年の健全育成へ地域の協力の必要性を訴えました。最後に方城中生徒会長の皆川貴建くんは、「みんなの命を守るために薬物は使用しないことを誓います」と力強く宣言しました。



↑ 自身の薬物依存時の経験談から、薬物の恐ろしさを訴えた九州ダルクの利用者。

↓ 熟練のテクニックで、懐かしの洋楽2曲を披露した「くるすのバンド」の演奏。



第15回上弁城六夜待
江 戸時代から伝わる地域の伝統演芸会

江戸時代から上弁城地区に伝わる伝統祭事「六夜待」。昭和35年に途絶えていたこの祭事が、平成9年に復活し、15回目を迎えた今年も、8月18日に地域を挙げて盛大に開催されました。ステージでは、この日のために練習を重ねた演者約70人が舞台上に立ち、舞踊やダンス、バンド演奏など27演目を披露。約5時間におよぶ熱演で、地元を笑顔と感動で包み込みました。

↓ 同行した山岳会のメンバーから福智山の自然や歴史を学びながら、汗だくになって山頂を目指す参加者。



田川いきいき学舎事業
小 中学生が修験の道に挑戦

田川地区の小学4年から中学2年までの約30人が、8月8日から4泊5日で「修験の道プロジェクト」に参加しました。この宿泊体験は、県と8市町村で推進する田川広域連携プロジェクトの一環。異なる地域や年代の子どもたちが集団生活を送ることで社会性を身に付ける狙いがあり、福智山から英彦山までの修験道にゆかりのある計約40kmの「修験の道」を巡りました。スタート地点となった福智町では、白糸の滝から福智山山頂まで約6時間かけて往復し、歴史と文化に触れながら自然の中で心や体を鍛えました。

第9回日韓交流事業
言 葉の壁を越えた心の交流

今年で9回目を迎える日韓交流事業の訪問団受け入れが、7月26日から2泊3日で行われました。上野焼開祖・尊楷ゆかりの地である韓国との交流が目的で、泗川市から25人、町から22人が参加。上野焼の見学や勾玉作り体験などを通して交流しました。最終日の見送りでは、「また会おうね」と10月に予定している韓国訪問まで、しばしの別れを惜しんでいました。



↑ 参加者たちは上野焼の説明を受けながら、青柳不老園で作陶の様子を見学。

↓ 時折ユーモアを交えながら、同和問題について分かりやすく解説した堀内さん。



福智町同和問題啓発強調月間講演会
山 本作兵衛が後世に伝えた個の大切さ

福智町人権講演会が7月26日に福智町地域交流センターで行われました。田川地区人権センターの堀内忠さんを講師に招き、山本作兵衛の炭坑画が評価されたいきさつと識字などの同和問題との共通点について講演。堀内さんは「物事の見方は一つではない。個を大切にすることが同和問題の早期解決につながる」と語り、人権が尊重される社会の実現を訴えました。